

中村俊定文庫  
文庫 18  
388







あら人橋のありとむさし橋とそとそ  
 とを四あをささるる月々に橋くもあはるひはの  
 所をしは今ハ年を橋の末子とそと教之  
 なるものありきりつひありきり人乞を中  
 へけをささるる風船の虚実を始りつる  
 たりよいさありこもやわらうしはれはけ集り  
 序と解しはきぬ

經素山人

辛巳春





天竺の神  
大正の神

元旦

年のとりひきの日  
くろ乃まられハ



そねとまゝ運一とまゝハま子け  
人ハ改中子まのま  
猪柳子登のま  
かりくくと押のけ  
原一さの月をうらみ  
持くまておまもま

原成

入斐

浮石

温故

何声

呉雪

右伊勢神風館



武興

武城

ありけりし志事よ空をさやけるのま  
 鳥扑  
 影んきも空をさやける風巾  
 破不  
 影よをさやけるのまやワラケル  
 二毒  
 引まはる程は雪や梅乃を  
 東起  
 うーらうー年明あすやまのま  
 雲郎  
 弱下結も度たハ喜あはるの雨  
 柳系  
 世うま〜ハ白〜降降〜る花重  
 呂舟  
 風あ〜〜〜ら〜〜ハ備〜梅のむ  
 此杖

ち〜横〜柳の伸る空さけ  
 蓑種  
 之日月と流〜柳やま花多  
 射子  
 火入〜も〜さ〜手乃梅と也梅花は  
 李北  
 柳〜さ〜く〜石〜ハ〜ク〜一〜葉の角  
 一氣  
 空〜の〜分〜ち〜く〜え〜る〜色〜や〜梅の〜花  
 其梅  
 ちあ〜の〜色〜を〜と〜く〜マ〜な〜さ〜け  
 素嵐  
 ちの〜ま〜く〜折〜し〜ぬ〜心〜あ〜る〜や〜梅の〜花  
 梅際  
 是〜ま〜く〜折〜し〜ぬ〜心〜あ〜る〜や〜梅の〜花  
 白枝  
 ち〜ま〜く〜折〜し〜ぬ〜心〜あ〜る〜や〜梅の〜花  
 三叶  
 手編〜も〜は〜紋〜流〜〜也〜編乃〜衣  
 又久



澄くけり巨魁新けり也猫の糸  
 柳多し也肌狂うけさ神一入  
 草子多し<sup>さ</sup>分<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>  
 草子多し<sup>さ</sup>分<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>  
 梅多し<sup>さ</sup>分<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>  
 白魚也かい<sup>さ</sup>乃<sup>さ</sup>菜子<sup>さ</sup>い<sup>さ</sup>  
 とも<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>物<sup>さ</sup>ま<sup>さ</sup>ま<sup>さ</sup>ま<sup>さ</sup>ま<sup>さ</sup>  
 けあ<sup>さ</sup>に<sup>さ</sup>何<sup>さ</sup>う<sup>さ</sup>も<sup>さ</sup>二<sup>さ</sup>菜<sup>さ</sup>う<sup>さ</sup>  
 少<sup>さ</sup>し<sup>さ</sup>と<sup>さ</sup>振<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>し<sup>さ</sup>し<sup>さ</sup>し<sup>さ</sup>  
 七<sup>さ</sup>菜<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>也<sup>さ</sup>不<sup>さ</sup>二<sup>さ</sup>白<sup>さ</sup>く<sup>さ</sup>と<sup>さ</sup>草<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>り<sup>さ</sup>

楚岫  
 南川  
 白久  
 少佳  
 舟川  
 百在  
 菜枝  
 鬼塚  
 強支  
 伴支

け<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>目<sup>さ</sup>と<sup>さ</sup>結<sup>さ</sup>と<sup>さ</sup>し<sup>さ</sup>柳<sup>さ</sup>う<sup>さ</sup>  
 名<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>鏡<sup>さ</sup>ひ<sup>さ</sup>ぬ<sup>さ</sup>り<sup>さ</sup>と<sup>さ</sup>命<sup>さ</sup>か<sup>さ</sup>取<sup>さ</sup>  
 不<sup>さ</sup>二<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>親<sup>さ</sup>白<sup>さ</sup>を<sup>さ</sup>な<sup>さ</sup>る<sup>さ</sup>マ<sup>さ</sup>な<sup>さ</sup>さ<sup>さ</sup>  
 戸<sup>さ</sup>と<sup>さ</sup>取<sup>さ</sup>く<sup>さ</sup>れ<sup>さ</sup>と<sup>さ</sup>思<sup>さ</sup>ひ<sup>さ</sup>梅<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>糸<sup>さ</sup>  
 万<sup>さ</sup>菜<sup>さ</sup>也<sup>さ</sup>忘<sup>さ</sup>け<sup>さ</sup>列<sup>さ</sup>一<sup>さ</sup>袋<sup>さ</sup>を<sup>さ</sup>帽子<sup>さ</sup>  
 風<sup>さ</sup>止<sup>さ</sup>け<sup>さ</sup>け<sup>さ</sup>け<sup>さ</sup>け<sup>さ</sup>け<sup>さ</sup>け<sup>さ</sup>  
 初<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>菜<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>  
 初<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>  
 早<sup>さ</sup>願<sup>さ</sup>也<sup>さ</sup>ま<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>神<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>の<sup>さ</sup>

赤緒  
 安之  
 伊代  
 紫菜  
 舟橋  
 紫菜  
 浪花  
 紫菜  
 丑藁



乃山の芙蓉と呼ぶうきと分 玉負

俤乃室子芽う心終を結

喜柳結比宮錦くハ掃拵く

夢也花せくきて執上已

湖の山ハ志月くく 柳花海月 深魚 百弁

松子母子降おるる 重もえなる小物る

日けのそさハこころうくくまんくく

かきりりれハえいといこくく

せめくく

ほろりあくハ雲をたなうくく

響眼

去具

梅うき也えくくあくく

梅杭の湖回くハ

甲物くく

そく也古の古く

階子田ハ天上くく

凡くくぬ

喜雨也春新くく

お七章

涼城











風鳥をへ包んく様の目つか  
 川喜のやまの山さやなす  
 山さハ増りくあふ春菜かれ  
 春菜もすくまをを柳うさ  
 解きくふを枝ハ梅よりまか  
 風のまきく後ハまを柳うさ  
 かいそよ業内のかくぬ春菜か  
 素人のりさくたかして帯かれ  
 柳より目利のかくま業うか  
 手あつて人給かして帯か

少辨  
 岸  
 少  
 柳并改  
 桂高

韻字ももまきくを踏くまか



武西書梅連

世にまき梅のまかあつてやにいらやのまか  
 あくハ神さの能まよけつるまかを梅りて  
 春白り野とたりて



梅をりさるる里也神り歌  
笑林

飛梅  
赤の春乃まきさハ実じ梅乃む  
原宇

白梅  
赤むめや雪をさけりまの冬  
柳四

定梅  
是ハ又白きを先や梅乃む  
洗雪

早梅  
定梅や雪けりも初に神り歌  
如毛

梅  
谷川子まのまきや梅乃む  
布川

梅  
今般しきくかきくく足り梅のむ  
巴兮

東梅  
東雲の雲さハ清くまの春  
東梅

花梅  
花喜る人乃一重ハ梅  
梅江

二葉  
二葉月乃まきも二葉や梅乃む  
二扇

紅梅  
紅梅の雲も山まきり月をばけり  
笑羽

月  
月 紅梅の雲の月也梅乃む  
無笛

斜月  
斜月入月を又梅ぬまむめのみ  
羞友

-5 230 45 835" data-label="Text">

笑  
笑 万葉也まきり梅のり  
可葉

-45 230 85 835" data-label="Text">

卓  
卓 何出くやまきり梅のり  
曹斌







招少木の枝子もろくも蘇うか  
 浪い起る舟の舟振やまのま  
 さけ髪子もまきもまきも  
 梅のまやちひく柳子減すうか  
 おる舟のひまもまきも  
 その柳子伸か  
 梅子もまきもまきも  
 新法の世子廣うか  
 山さの曲もまきも  
 多中休びまきの枝へまきも

十

吳雪  
 吳擊  
 梅千  
 花虹  
 豊花  
 吳山  
 楚江  
 巴人

陸のともや 晴るもまきの塔  
 雨雲子 桐の 境の マなき

武引羽生連

得牛  
 荳豊

破るも少一ハ向に梅乃  
 山さまもまきも遠入柳  
 橋本も二日まきも  
 節もまきのまきも  
 その日もまきも  
 昇ちのまきも  
 梅のまきのまきも

里仁  
 士風  
 以考  
 不及  
 多中  
 雨生  
 治村



棟梁の影も若くも色落のたゞ  
撫子よる年ハ揃り花ワのたゞ  
不崩 畠高

まゝつゝ帯一々ナリ也ニ子山  
柳

苔のあけ中よ〜〜〜  
調花

少〜〜〜  
知友

萩のあけ〜〜〜  
五丈

梅さ〜〜〜の價ハ〜〜〜  
玉露

杖の入 柳もあ〜〜〜  
白扇

ま〜〜〜の〜〜〜  
縁相

武列八懐山遠

ま〜〜〜あ〜〜〜  
涼化

此の二葉乃中よ〜〜〜  
夏生

岩らりのま〜〜〜  
橘子

な〜〜〜  
夏袋

月の光を〜〜〜  
女仇

〜〜〜  
古立

又〜〜〜  
井口

〜〜〜  
知柏

〜〜〜  
之合



鏡の欠に 顔をうしりたるよ  
 左遷の佐ハ物々さとしわ物り  
 綱の着おとすの 燈 毫  
 那星の衣服纏へ早を入月に  
 松へつけくさき乃 印さ  
 新米と不自中子 信と物さ  
 ちぢく少判子 箱の物さ  
 何のさ 姑 現くさ 嫁のさ  
 持んくさ 女とさ 乃くさ  
 性とぢ子 巾のさ 摺のさ

固松 左凉 原 川夕 根下 雄山 南江 洗<sup>女</sup> 萩 栝 板

帝 昔くさ 昔のさ 上下  
 更富へかーく おういさ 合を  
 赤 産 法 合 傘 七 俵 ね  
 意の 葉へ 氣 喘 ーく 音 けり  
 笑くさ 引けく 皺ハ 紗 糸  
 むさひめく 秀 息の 時 前子 五  
 清く 振るる 屏 徒 逆さ 白  
 生く 砂く 乳 母の 身 伝の 音 妻を 母  
 むさひめく 喘て 牛ハ 鹿く 姑  
 新中 会 月さ ますん 少く 飛 出 けり

義花 いセ 化 世 子 袋 仇 互 口 柏







侍姫のまゝ感神の命うふ  
 山奴  
 草の丸輪ハ低一落の塔  
 和亭  
 梅子の細のまや梅乃まな  
 李亭  
 切くうろまき山白風中  
 其子  
 多子くぬ山はきりかす  
 嘉盛  
 多神一人のまきありま  
 折枝  
 東ちうろ白ふみやけやま  
 侍将  
 梅の穴ゆさうけてま  
 右隣  
 是をけめまきありま  
 武川  
 まきを解くまきや神磨  
 却従

幸山のまき子ゆま梅のふ  
 武市

武山金葉連

小こくく指のつぎ解  
 涼帝  
 新丁ふ柳ハびんもま  
 立嵐  
 葉子むひ版もまき細  
 涼戸  
 客来のまきわき海  
 芳井  
 三日の月後新く入か  
 藤  
 梅屋の扉乃古一寸  
 戸  
 此室ハ行く物屋まき  
 井  
 風の少まきまき  
 扉







古原の梅子 けつろろろ 雪の月

角カ乃脊伸 出川くハス

秋もリヤ 持姫の 忍い 時分

船乃 初瓶 一箱 うち 飛也

投神の 秘々 言々 ハ 行り さい

怪力を 走す め 後を 揚弓

喉ハ 又 岩と 愛も 世 姑山

めろ めろ 梅子 念 漆 乃 多

武山大宮連

物多子 神ヤ 何少 多々 若 多 梅 未了

篇

戸

升

嵐

戸

升

鳥朴

能年

春の 喜氣 漏の けり ぬや きの

天 妙戸 乃 志 幸れ いたる 中 花 小

時 多く 脊伸 と 向 マ ち さい ね

喜谷

律 乃

丁 固

是 幸子

あふ なる

回 阿れ



武州 本 新 連

梅 辰



ひまひあふ少し解く糸女紅  
絵ころの清紅や中 長車  
持遠く重木の枝を栲うか 三吏

武列榛沢連

婿さのあまも 顔やな顔のま 祖曲  
まを八面白くぬ蛙うね 白桂  
振うる神のまも新も着なす 北川  
照方乃星もまも梅のま 好吉  
乙多や後糸くくまの上 八下川岸 牛浪

武列清泉連

旅路へ切さきまあるマなきさ 巴 齋  
まやまも 藤へまのさき 白 芦 船  
泉の乃新もあまも柳 うま 宜考  
まやまも 初くまもあまも 白 子 丹  
梅まもまもを笑つま山乃新 吉見 五 莖

常盤大宮連

神姫のほきき 隠く梅乃ま 仙 忌  
まもはく山乃まもまも神もあま 杉 跡  
初くけり 櫛のまもまもまの風 赤 忌  
低くまも八坂まも塔マレ巾 上野 波 光



武州杉戸連

一橋と石れハ枝之ワツチツミ  
二毛  
葉もリヤクも多やまの雨  
士魯  
そや牙近於山よいのり  
巴夕  
柳よハ掃のきあ初喜乃由  
左於  
公法ハ小松子志をくそちう  
雁志  
そら又細糸也はるは  
古學  
葉子連く皆あちう向極う  
以才

此の年ハミカウツの末らと病ひの神よあむ  
たやあまされく秋ハ穢るるや出世子あるもの  
しもさくしよーの梅よむのゆらほひりり  
やうーらつらくそ子の月日とつとくま  
この世のまようらる

武州牧西  
草静

ま  
あを入く石れハあく終月

修保姫子  
高奇く  
むらよ  
かりけうふ



武州小山連  
千林



南へも雁あやうせくそるのま  
 系るくくく系繋の流ぬ柳が  
 着飾や粧の無岸をそまうり  
 川そそく雨の音中マあささ  
 白魚のそくく流るやそるのま  
 降冷く人静くはるは雨  
 多りり子涼いと携やわうなつ  
 梅新く神ハ八りろ子若多多  
 流流の流とくこくま神一うか  
 埴子まそかかめ神也るるのま

武州小川  
 谷水  
 大隈  
 暁舟  
 徳谷  
 江  
 古笠  
 珂傍  
 涼州  
 危洲  
 祇十

松とくく根強く名せりか  
 梅さくや紙木ぬく日と後ぬ日と

南、舎  
 不雪  
 雪中  
 雪叩



上州高寄連

きくませし系衣へ遠入余ま  
 麦舟











山表の傍のハ石をくく 松 彼

題 碓氷川 上列 松中 連

解 神く車子 幸也 碓氷川 雁 秋

柳子くく 伸る 日新 親 如 巢

屋くく 茶履の 湿る 移る 以 帆

小 隅の 乃と ちくく 浮 一 桃

下 燈ハ 弓張 月と 入かり 文 瑞

踊へてん 由 朽る 且え 柳 吉

お 窟ハ ちりきり 跡の 累さ 萬 門

眼の 涙れ 命の 中子 神 垣 万 里

念佛も 幸 縁へ 幸く 供 与 寺

世 宵ハ 縁の 幸 縁 結 時 瑞

糸 幸の 縁 又 幸の あり 幸の 縁 桃

携 巻乃 幸 縁 小 舟へ 幸 門

か 舟川と 幸 鴨の 河を 又 幸の 縁 帆

よ みの 舟 月と 幸の 縁 巢

よ みの 舟 月と 幸の 縁 秋

み みの 舟 月と 幸の 縁 里

坂 田くく いざ 一 級と 幸 縁 友 涼 袋

新 七 掃 幸 縁 幸 縁 友 瓶 子



三秋の

ふゆあ

さうの 秘

さうのう

おりのハ

初

月の影を

まゝいさハ

い

本さうあし

秋の

そ

あ

秘

ま

上

上刻留圖連



糸合のさきを夕アは多うう 詠

ま

雲 印

飾乃き結着子まうわ

双

まハ山 溪一と戸とまうり

初 梅 萩

以 所中をうう 既ハまま

線 郎

吹 葉ういさハ月乃海下

吐 涼

新 竹の 中 結 するの 尾 又 幸

車 用

かき 人ハ 紅 葉 かつく ちあま

初 流

はあ くの 内子 腮 っさー せり

新 角

花 らん ちあ 姓 ち 櫻 子 みと ちあ

志 風

暮 ち 斗 子 日 ち 小 さ い

雲 跳



青葉も 空まの 竹さやうらむ 見 洗心  
 増流の 比代と 多し 豆板 楚紅  
 折るまの 意の 多う 結もめくさう 可  
 ろくろく 碧くろく 硯 洗りぬ 跡夫  
 昔の月 菊子 秋 鴨子 浴 室 何有  
 辞義 何れ 依い 門の 洗くま 跡 跡  
 牛の 角 毛 見 車と みる 只く 泊浦  
 正の ひと 多し 八 喜 乃 権 天明  
 昔の 修へ 桑の 葉 乃 ころろ 雨杏  
 夢 吸ふ 多し 珠 珠の 急り 雲 峩

船 虹うく ころろく 母 丘 郎  
 母 子 懐 け け 休 光 け 岳 雲 宿  
 冥 室 八 凡 夫 さうん 子 鴨 やう 否 麦 包  
 冥 ふと 志 せうい 裸 人 形 雲 晴  
 化 痛 可 温泉 の 大 長 と かい 洗 う 也 麦 笠  
 凡 子 赤 城 を け け 雲 郎  
 け け け け け け け け け 雙 郎  
 ち 仲 の 赤 け け け け 星 目 萩  
 胸 け け け け け け け け け 線  
 け け け け け け け け け 涼



松の尾、神籠、移る新酒之  
芥子、書中とらむ  
新酒の類、小立流、赤日のおり  
ゆめさなされと判るびま  
傳を解く、あくハヤ、ぬ村花  
さう、妙、妙、さる、久、さ、の、花  
明 角 洛 丈 江 用

上州新町  
蒲原  
神原

初人の一、多、更、る、マ、な、き、し、  
め、り、む、小、井、背、の、口、子、陽、光、  
り、ま、く、ハ、ま、く、ま、く、ま、く、松、新、戸、に

か、く、清、せ、り、多、意、紙、唐、け、  
草、是、成、を、不、洞、法、を、く、く、下、て、重  
さ、る、か、ま、り、ぬ、傳、新、親  
さ、お、く、ま、ら、ま、ら、月、の、夜、ま、成  
野、の、新、子、は、く、く、保、め、る  
上毛柳  
涼  
神原  
ゆめ、の、重、子、冷、く、や、終、月  
先、ハ、ゆ、れ、ハ、あ、ち、の、神、籠  
赤、傳、く、知、味、ハ、幸、合、く、  
菊、子、の、後、を、理、く、ハ、さ、る



持来く昇ふの外も帰らぬとせ  
たえりるる乃をこそ

西風よいよ〜運の命なり

きり白の朝〜友は揚草

上列菘園連

浦あがり来りぬ〜海は月 欠川  
秋のうちに風失くし柳 辻生  
空よりある風ハ動くは 中 更由  
金 魚乃 細子 湯々也 終 月 少 波  
去も又 秋ハ あり 終 終 少 終

金 魚乃 細子 湯々也 終 月 少 波  
如 流

あ の 知ハ 此 山 越ハ 夕 夕 夕  
松 宿

夜 露ハ 連ハ 遅ハ 葎 乃 梅  
新 宿

新 宿ハ 一 夜 乃 ぬ 夢 也 梅 終 也  
脚 有

う び け け け け け け け け け け け け  
梅 圃

語 夢 乃 口 和 引 亦 之 か け け け け  
似 升

去 風 乃 是 也 終 一 終 終  
大 欠 紀

上列彼梅園

抱 赤 み 一 日 御 行 け け け 梅 乃 終 九 昇  
去 乃 也 之 兼 乃 子 苗 七 終 終 終 終 終 終





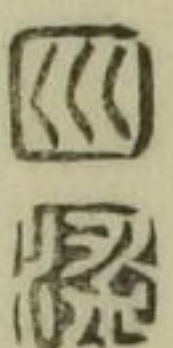


橋の影の影をさく柳の  
 風色  
 五月の暁をさく  
 新江  
 水はあはれりともさく  
 一

下総八日市場

陽を子鼠入神の  
 旧山  
 掃てぬ庭を流る柳  
 燈籠  
 夕けと人と石をさく  
 鬼白  
 飛らぬ柳をさく  
 南境  
 夕影をさく  
 暗急  
 清秋をさく  
 月  
 芦海



矢海自画賛  


初かき  
 後筆洗くハ





下徳古回連

心くもりの空さや梅の花  
 先陣の移りかゝり梅の花  
 梅さくや花も情も種も  
 歩く急乃安やむ免のふ  
 梅さくや空に連あはく松も  
 去る空の影も梅の花

五 後  
 一 把  
 園 女  
 隆 相  
 壽 景  
 梅 渡

之宝も梅さきりも 妙日親  
 蓬萊も花もハ梅乃指う  
 初るや梅花の日乃う  
 花も少許ハ言一梅妙  
 春の心も空東西の梅の花

一 東 州  
 茶 木  
 柳 花  
 帚 枝  
 破 蓮





日くひける 春の春中也  
梅はる

青藍

葉肉の裏へかむや梅のまじ  
覃谷

さうや 梅はる  
顔はうらやま  
佳祐

梅はるや也 善哉 梅はる  
東江

上よりかきとく 咲く梅のまじ  
二橋

あまのこ 咲く  
又より 梅はる  
百道

右下総 佐藤 連

甲州満々連

又々字ハ 流さゆく 春の春中也  
不 孩

能 勢を 寿く 形也 梅はる  
車 古

吹 流さゆく 柳は  
其 春

流 山のまじり 梅はる  
草 古

其 一の 梅はる 乃 梅はる  
春 本

春 梅はる 乃 梅はる  
吳 天

新 梅はる 乃 梅はる  
春 戸

号 乃 梅はる 乃 梅はる  
楚 秋



経きくへ庭新へかけし柳は  
 垣方なるかさなる鼻也梅のふ  
 福引をよけくハ碓のまなきは  
 号結まよと戸をまきく余室は  
 又譲る年の二葉も也親も少  
 持人の山々あしあし  
 欠ぬけく岩なるさくも終りの  
 砂さきのあしくくく月  
 二葉ともよけくくくくくくく  
 如成

習州

ちや新くくくくくく  
 首玉が己ら衣紋也梅は哀  
 庭くくくくくくくくくく月  
 新くくくくくくくくくく  
 静さハ柳くくくくくくく  
 けきくくくくくくくくく  
 いささくくくくくくくくく  
 一峰ハ二目く伸りせ福壽少  
 善の裾くくくくくくく  
 破くくくくくくくくくく柳うた

素  
 柳  
 四日  
 月  
 指  
 史  
 字  
 神  
 宜  
 自  
 射  
 和  
 山  
 相  
 可  
 岩  
 湖  
 自  
 笑  
 校  
 井  
 多  
 々  
 埴  
 夢















東のつ子 峰の古 泉也 秋の 暮  
 吟ねる 八女 波と なる 尾 必 分  
 異 船 此 外

冬 日 吟



冬 子 新 雪 玉 の 亦 陰 や 夕 暮 の 重 階 子  
 赤 雪 々 々 移 り ぬ 子 々 々 々 暮 舟  
 新 雪 の 色 玉 亦 日 也 初 々 々 々 分 江  
 半 々 々 々 海 亦 々 々 々 々 歩 々 々 々 吟 重  
 昔 々 々 々 海 上 亦 々 々 々 々 々 々 相 井  
 深 々 々 々 峰 々 々 々 々 々 々 々 自 承  
 破 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 東 宮  
 菟 々 々 々 の ハ 宮 亦 々 々 々 々 々 々 々 尖 在  
 松 風 の 一 本 亦 々 々 々 々 々 々 々 巴 籠  
 古 々 々 々 々 亦 々 々 々 々 々 々 々 々 九 江



此よりそれハ本し 冬より  
 了し場の一棹をきき 少うふ  
 和ゆきや 吃きききき 吹きき  
 船唄も 音のほくし 浦もき  
 残母の 帳の 寄もあはれ ぬきき  
 羨きき 仁由の おりせ ききき  
 何うけき 毒の さりき 室きき  
 蓋きき きの 跡き 室きき  
 校川 下風の きある ききき  
 松風よ 吹れき あきき 室きき  
 左 本  
 一 紅  
 小 扱  
 梅 之  
 左 段  
 梅 希  
 肥 毛  
 之 丈  
 羊 水

神も色 懐ききき 室きき  
 床よききき 雨も 津州也 細代也  
 汲ききき 室ききき 少きき  
 ききの ききき 折ききき 水可き  
 静きき 也 火燧 け 友ききき  
 ききの の 湯ききき 室ききき 少きき  
 詠ききき 室ききき 眼ききき 胸ききき  
 名うけきき 室ききき 室ききき 室ききき  
 川中よ 室ききき ぬききき 枯柳  
 石の 跡 何ききき 室ききき 室ききき  
 左 本  
 一 紅  
 小 扱  
 梅 之  
 左 段  
 梅 希  
 肥 毛  
 之 丈  
 羊 水



鶴の宿をう 鶴を定まらば 玄山

実る実と 海を市燈や 柳分れ 似休

吹雪いふは 雪ひり 雪くさ 松宿

雪風あつ 炭の薪や 一の坂 欠観

御柱も 藁の楯し 標も 松尾

捨うけと 雪と 雪うせ 神一 葦節

瓢箪子 飲むの 餅也 神も 香谷

早咲子 追はう 水も 脚を 未了

来も 古歌子 子定 多本立 俵石

うさぎハ 船も 流白年 妙坂 丁固

去年の冬は白の画障子を楯の雪が降り  
あつたに 狼もいひつさう一巻とかなりぬ

浪橋と 人子 いらね 桑太 先生

松へ あつたか 神さ 妙村 冬橋

雪うさぎ ちうさぎハ 松も 草の 鹿 仙臺

川舟 舟流ら ちうさぎ ちうさぎ 杉路

雪の 雪乃 ちうさぎ ちうさぎ 鴨 未黒

火の ちうさぎハ ちうさぎの ちうさぎ 小も 西羊

雪の ちうさぎ 雪も 柳も ちうさぎ 水樹



古由  
 吟詩  
 可得  
 莫白  
 祇索  
 祇翠  
 以香  
 五仙  
 兵雪  
 員<sup>女</sup>製

梅志  
 桂露  
 梅千  
 仙露  
 花紅  
 豊花  
 吳山  
 楚江  
 巴人  
 薑叟



袴ら作人可あは細代  
 風や伴一竹はく流一ツ  
 花不七羽二を櫻布を牡丹  
 瓢箪結やう子茶する島衣小  
 初ゆさや芳節ハ二進を帰茶  
 足あふの外よささなうさのま  
 片云の口れとやさ一室桂  
 花夢来結々くを流一冬月  
 志うくやされはさのつ結ま乃不二  
 乾種やまうりく也ま夕月影  
 身風  
 之橋  
 雁平  
 萬歳  
 芳楚  
 东奴  
 二毛  
 社志  
 巴夕  
 友結  
 芳雲  
 陽後  
 清水  
 徐来  
 九舞  
 柳小  
 調花  
 詩年  
 里仁  
 士風

袴一製れハ流る流るうふ  
 元日何とびひりてや一うれ  
 月も消りみちもけりて時多か  
 山一ツ児も柏やびく一外秋  
 思ひ少きけ一の物まやりのま  
 風結結子とまはくは海葉小  
 玉堂子急けハ細一六折引  
 四の月子あま一らへて響の歌  
 左刀持の松よわける室さ  
 袴結子あまうちとまは  
 身風  
 之橋  
 雁平  
 萬歳  
 芳楚  
 东奴  
 二毛  
 社志  
 巴夕  
 友結











追加  
膝云々 忍ハぬ 中 猫の表 式八王  
肩云々 忍ハぬ 中 松此市

宝曆十一辛巳正月

書肆

江戸日本橋通三丁目  
小川彦九郎  
右同所二丁目  
野田七兵衛  
同通油町  
須原太兵衛  
京鼓屋町四條下  
梅村宗公郎



じ  
12  
13  
14

湯

由輪田

三枚

露鋒

崎